

学校法人関東学園
関東短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

関東短期大学の概要

設置者	学校法人 関東学園
理事長名	松平 順一
学長名	渡辺 敏正
ALO	鈴木 勝雄
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	群馬県館林市大谷町625

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
こども学科		150
	合計	150

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

関東短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成23年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成21年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神が確立しており、時代に即応した新しい概念の追加も行われている。建学の精神は学生便覧等に明示し、その浸透は、挨拶用語「ごきげんよう」の奨励によって日常化されている。また、教育指導の指針として「こども学科教育指導計画」が明文化され、教育目標とそれを具体化する基本姿勢が示されている。

教育目標に沿って教育課程が体系化され、教養教育及び資格取得にも一定の配慮が認められる。科目履修における選択の自由を保障しており、演習・実技・実習科目では1クラス50人以下として丁寧な指導を心掛けている。履修指導には多くの時間を割き、十分な指導が行われている。

校地・校舎の面積ともに短期大学設置基準を上回っており、十分な広さを有し、極めて快適な環境である。教員数も短期大学設置基準を満たし、各種の教室、図書館、運動場、体育館、設備・備品等についても一定の水準を上回っている。

単位認定の方法はおおむね妥当である。学生の満足度については、年2回学生の授業評価を実施し、授業に対する理解度や満足度を把握すると同時に教員の授業改善資料にもなっている。就職に至る教育指導の面では日常的な努力が十分に認められ、資格取得率は100パーセントで専門就職の割合も非常に高い。

建学の精神、教育目標、求める学生像が学校案内等の印刷物に明記され、多様な入学者選抜方法についても学生募集要項に明解に示されている。4月当初に全般的なオリエンテーションを実施し、科目選択にはオフィス・アワーを用いて個別に対応し、また具体的な履修指導は学生サービスセンターが対応するなど、それぞれ十分に役割を果たしている。学生生活が快適に過ごせる十分な環境と支援体制を整え、全教職員がそれに携わっている。

個人研究費及び機器・備品等の購入に関しては、規程に従ってほぼ一定の水準を保ち、研究日を設けて研究時間の確保に努めている。毎年定期的に発行される研究紀要において、従来の研究論文に加え、平成14年保育士養成課程開設後は事例研究も掲載・公表されるようになった。全教員の研究活動については、自己点検・評価報告書

の一項目としてウェブサイトにて公開されている。

地域社会に貢献することが高等教育機関としての使命であると位置付け、生涯教育の一環として夏季に公開講座を開催し、地域子育て支援事業を展開し、知的財産を社会に還元する方策に積極的に取り組んでいる。あわせて、学生のボランティア活動も奨励され、知的障がい児の活動支援、特別支援学校での学習支援等、一定の活動実績をあげている。

理事長及び副理事長の強いリーダーシップの下、学校法人の管理運営は行われている。学長は、当該短期大学の運営全般において適切にリーダーシップを発揮している。当該短期大学は単科であり、委員会としている組織は少ないが、各種の支援室や担当が有効に機能している。教育研究活動を支援する組織として事務組織は適切であり、人事管理はおおむね適切に行われている。

経営の状況は、余裕資金はあるものの、過去3年間にわたって学校法人全体及び短期大学部門の支出バランスに課題がある。財務管理は、所定の手続きを経て適切に行われている。施設設備は過不足なく整備され、適切に管理されている。私立学校法の規定に基づき、財務情報は閲覧に供するほか、ウェブサイトにて公開している。また、平成20年度から5ヶ年の経営改善計画をプロジェクトチームが作成し、現在これに基づいた改善が進められ、一定の成果をあげている。

改革・改善に自己点検・評価を活用し、きめ細かな個人指導を徹底するために、教職員による組織的な就職支援活動に取り組むなど、具体的な方策を講じている。平成19年度、3ヶ年の自己点検・評価に基づいた報告書が作成され、平成21年度以降ウェブサイトにて公開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 建学の精神から導かれる挨拶用語「ごきげんよう」の奨励は、他にみられない特

色であり、当該短期大学出身であることを示すアイデンティティにもなる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 入学直後に行われる 1 泊 2 日の校外研修にシラバスを持参させ、履修に関するガイダンスを行うなど、多くの時間を割いて丁寧に説明・助言することによって、誤解による登録ミスや履修放棄を未然に防ぐ工夫を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の蔵書及び予算などは一定の水準を上回っており、さらに保育関係の大型書籍や資料を保育園等の学外へ持ち出すための専用バッグを用意するなど、利用者の便宜を図っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学試験合格者で入学の意思を表明した者に対して入学前説明会を開催し、教育方針と学習目標への理解を深め、入学までの期間を怠りなく過ごさせる工夫がみられる。また、入学後フレッシュマン・セミナー等をつうじて、確認と定着を図っている。
- 過去 3 年間で年を追うごとに就職内定率が高まってきており、保育現場との連携による組織的な支援活動が効果的に行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に開かれた短期大学を目指し、公開講座や地域子育て支援事業を展開することで、社会に知的財産を還元する機会を設けている。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務情報に個別の解釈・説明を加えるなど、積極的にウェブサイトなどに公開している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスを原稿段階でチェックする体制を整えるなど、表記の不統一や難解さを避け、利用者の便宜を図ることが望まれる。
- 授業改善のために、研修を含めたファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を全学的に実施する体制を整える必要がある。

評価領域VI 研究

- 研究紀要を充実し、更に教員の研究活動を活発化するための、研究環境の整備が望まれる。

評価領域IX 財務

- 余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門において支出超過であり、財務体質の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神が確立しており、時代に即応した新しい概念の追加も行われている。建学の精神は学生便覧等に明示し、その浸透は挨拶用語「ごきげんよう」の奨励によって日常化されている。

また、「こども学科教育指導計画」が明文化され、教育目標とそれを具体化する基本姿勢が示されている。定期的な点検は行われていないが、必要に応じて改定が重ねられている。また、点検の手続きも順当である。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育目標に沿って教育課程が体系化され、教養教育及び資格取得にも一定の配慮が認められる。専門教育と教養教育とが、ほどよい均衡を保っている。

科目履修における選択の自由を保障しており、演習・実技・実習科目では1クラス50人以下として丁寧な指導を心掛けている。その一方で、履修者数とクラス分けに科目間でかなりの差が生じており、教員配置及び時間配分などに更なる工夫が望まれる。

履修指導には多くの時間を割き、十分な指導が行われていると認められたが、シラバスの作成に工夫が望まれる。加えて、学生による授業評価を定期的実施するなど、授業改善への努力は認められるものの、より効果的な教育のための組織化・制度化を図る必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

校地・校舎面積は共に短期大学設置基準を大きく上回っており、十分な広さを有し、極めて快適な環境である。教員数も短期大学設置基準を満たし、各種の教室、図書館、運動場、体育館、設備・備品等について一定の水準を上回っているが、障がい者に配慮した設備の改善が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法はおおむね妥当である。学生の満足度については、年 2 回学生の授業評価を実施し、授業に対する理解度や満足度を把握すると同時に教員の授業改善資料になっている。学生の卒業後評価への取り組みについては、卒業生からの意見を広く聴取することによって教学の質的向上を図るために、卒業生との組織的な連携体制を一層強化することが望まれる。就職に至る教育指導の面では、日常的な努力が十分に認められた。過去三年間資格取得率は 100 パーセントであり、専門就職の割合が非常に高いという結果がそれを物語っている。体制の整備や具体的方策の立案と実行などは、現在の組織体制から考えて、十分に対応可能であると判断される。

評価領域Ⅴ 学生支援

建学の精神、教育目標、求める学生像が学校案内等の印刷物に明記され、多様な入学者選抜方法についても学生募集要項に明示されている。4 月当初に全般的なオリエンテーションを実施し、科目選択にはオフィス・アワーを用いて個別に対応しており、具体的な履修指導は学生サービスセンターが対応し、それぞれ十分に役割を果たしている。学生生活が快適に過ごせる十分な環境と支援体制を整え、全教職員がそれに携わっている。とりわけ、開放型の研究室の特性を生かしながら学生との対話を心掛け、意見や要望を日常的に聴取する積極的な姿勢は特筆に値する。こうした不断の努力に加え、学生が主体的かつ積極的に活動できるように、入学時からのキャリア形成から就職先との連携に至るまで一貫した指導體制を構築した。その成果が、就職率の高さに表れており、進路支援への取り組みを高く評価したい。

学習上の悩みに対しては、教員による個別対応に任せられている。専門的な技能を有するスタッフを配置するなど、支援体制を充実することが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

個人研究費及び機器・備品等の購入に関しては、規程に従ってほぼ一定の水準を保ち、研究日を設けて研究時間の確保に努めている。しかし、研究活動で、改善の余地が認められる。例えば、テキストの共同作成や研究テーマに関する意見交換、関連学会における発表などは自主性に委ねられており、研究活動を奨励する方針や施策が明確に示されていない。

毎年定期的に発行される研究紀要において、従来の研究論文に加え、平成 14 年保育士養成課程開設後は事例研究も掲載・公表されるようになったが、更なる充実が求め

られる。

学生指導の一環として、オープンスペースをパーティションで仕切ったブース型の研究室を設けているが、研究活動に限っていえば更なる配慮が望まれる。FD 活動の充実を含めて、研究活動の活性化には具体的な改善策の立案と実行が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会に貢献することが高等教育機関としての使命であると位置付け、生涯教育の一環として夏季に公開講座を開催し、地域子育て支援事業を展開するなど、知的財産を社会に還元する方策に積極的に取り組んでいる。あわせて、学生のボランティア活動も奨励され、知的障がい児の活動支援、特別支援学校での学習支援等、一定の活動実績をあげている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会及び評議員会は寄附行為に基づき適切に運営されており、監事は適切に業務を遂行している。理事長及び副理事長の強いリーダーシップの下に、学校法人の管理運営が行われている。学長は、当該短期大学の運営全般に適切にリーダーシップを発揮している。当該短期大学は単科であるが、各種の支援室や委員会は有効に機能している。教育研究活動を支援する組織として、事務組織は適切である。人事管理はおおむね適切に行われている。教職員の平均年齢は高いが、今後の課題と認識している。

評価領域Ⅸ 財務

平成 19 年に文部科学省の指導を受け、平成 20 年度からの 5 ヶ年の経営改善計画をプロジェクトチームが作成し、理事会と評議員会の承認を受け、文部科学省に提出した。現在当該計画に基づいた改善が進められ、一定の成果をあげている。

財務管理は、所定の手続きを経て適切に行われている。また、施設設備が過不足なく整備され、適切に管理されている。私立学校法の規定に基づき、財務情報は閲覧に供するほか、ウェブサイトで公開している。

経営の状況は、余裕資金はあるものの、入学者の減少に伴い、学校法人全体及び短期大学部門において過去 3 年間にわたって支出超過の状態にある。当該短期大学は入学定員及び収容定員充足率の現状を深く認識し、学生募集活動の見直し、経費の削減などの対策を行っている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価報告書の作成も、全教員が分担して執筆した。平成 19 年度、3 ヶ年の自己点検・評価に基づいた報告書が作成され、平成 21 年度以降ウェブサイトで公開し、改革・改善に自己点検・評価を活用している。

他の短期大学への訪問調査を実施し、意見交換を積極的に行っている。改革・改善に努めようとする真摯な姿勢は、十分に認められる。